

CONCEPT

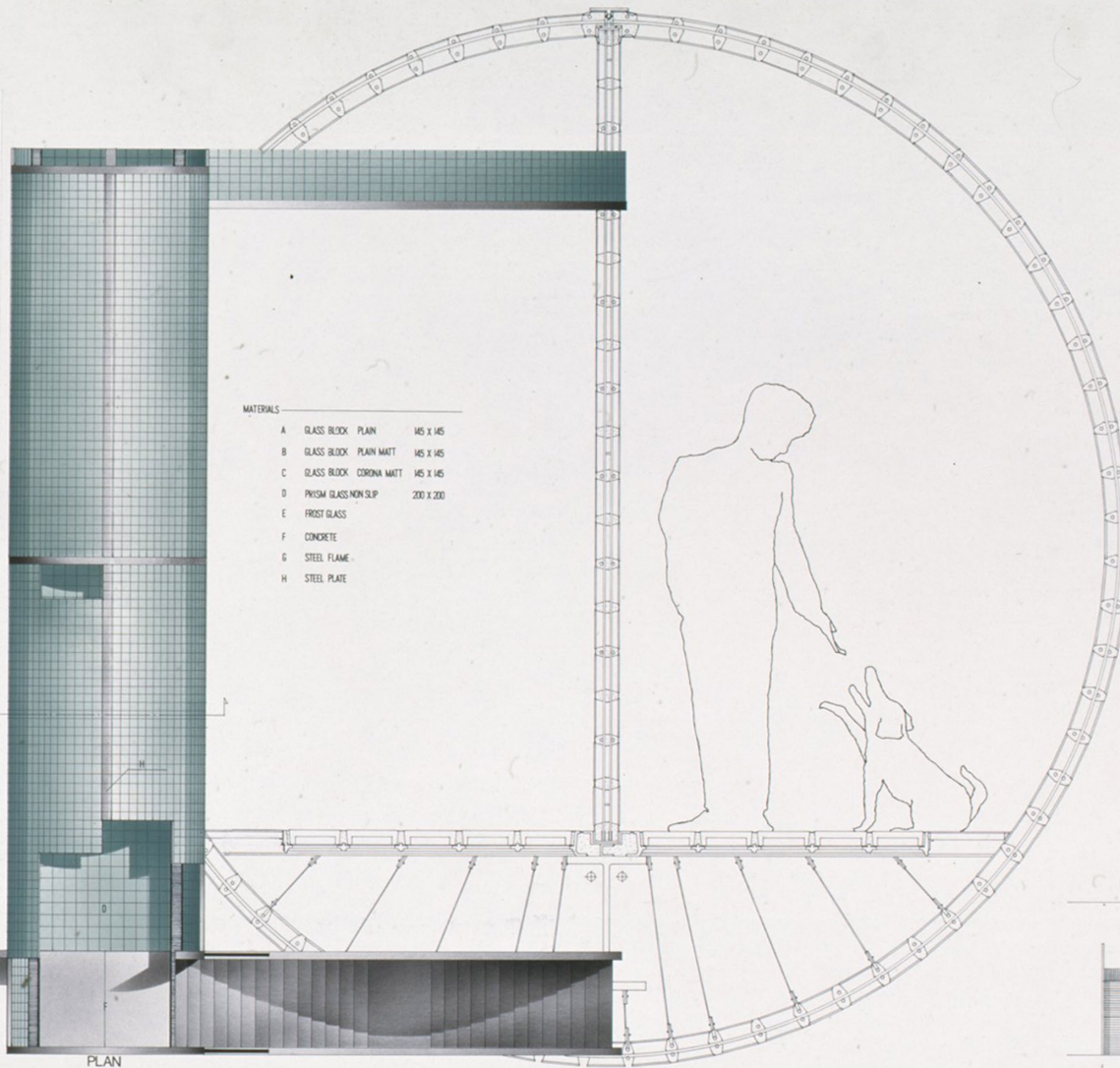
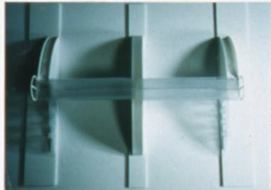
何気なく見逃しつつある公共物群。例えばそれらが機能とコストと
言う角度のみから作り出されたものとしても現在の都市というラン
ドスケープにおいてどれだけの価値を人に見出し、感じているの
が疑問である。物の存在価値、これはどれだけ、メリットの存在が
リスクの存在を上回ることができるかである。機能には限界がある
しかし美には限界がない、両者が限界に近づけば近づくほど美は機
能を大きく引き離していくだろう。「美に対する意識の向上」これ
が現在の公共物における課題である。

歩道橋、道路上に架けられ使用者にとっては当たり前の物であり使
用しない者にとっては気にも止めない物である。余力にも寂しき
建築物である。数ある公共物の中からこの歩道橋に注目し、歩道
橋と言う枠を超え一つのランドマーク的存在に位置付ける、これを
大きな概念とし歩道橋の計画を始めた。

橋の計画は大きな光の筒をガラスブロックの連続性により一つの
塊として形づくりその内部を歩道とした。この筒が太陽により
照らされ、夜は歩道内部の照明により歩道の足元、筒外部を柔ら
かく照らす。このガラスブロックにより形作られた筒が一つのラン
ドマークになり歩道橋の機能は基より待ち合わせ場所、道案内時の
目標物の一つになる。

そして光の筒を支える三本の脚は機能として単に支えるという行
為のみには止まらず中心（中央分離体）にある脚は内部に構造
体を持ち外部はコンクリートとガラスブロックのみで構成され昼は太
陽の輝きに伴い輝き、夜は筒の内部からライトアップされ中央分離
体を照らし安全の確保と共に美しきも与える。そして両サイドに
設けた脚は、当然の事ながら階段を設置した。さらに前に述べた
ように単なる歩道橋ではなく待ち合わせも可能なように階段の反対
側にガラスブロックのベンチを計画しそれもまた夜間内部からの照
明により照らされる。

このように現在の歩道橋が持つ固定概念を捨てより人が注目する
公共物にこの歩道橋はなっている。



MATERIALS

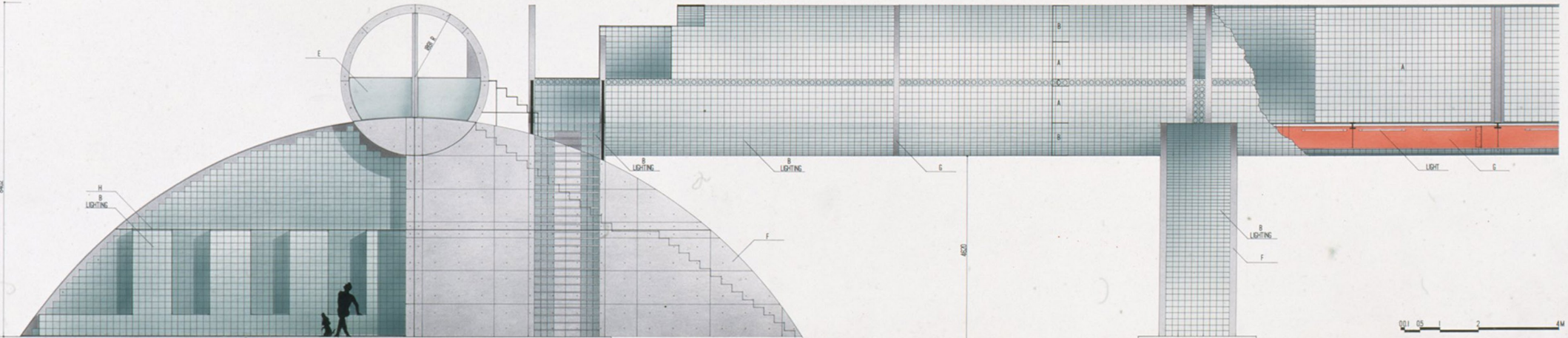
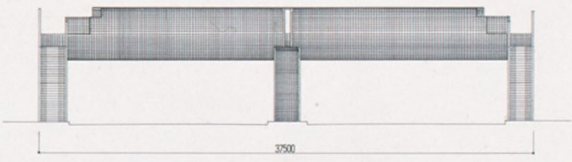
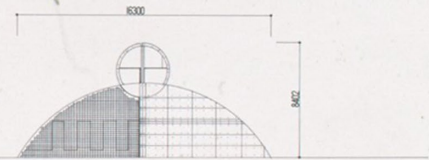
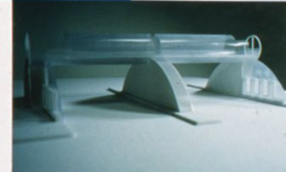
A	GLASS BLOCK PLAIN	45 X 45
B	GLASS BLOCK PLAIN MATT	45 X 45
C	GLASS BLOCK CORONA MATT	45 X 45
D	PRISM GLASS NON SLIP	200 X 200
E	FROST GLASS	
F	CONCRETE	
G	STEEL FLAME	
H	STEEL PLATE	

PLAN

THE 1ST NEG SPACE DESIGN COMPETITION 'GLASSBLOCK'

GLITTERING BRIDGE

輝橋



ELEVATION

SECTION